

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-161		16-099	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）			
Alcohol Policies and Alcohol-Related Motor Vehicle Crash Fatalities Among Young People in the US. 米国のアルコール関連政策と若年者のアルコール関連自動車死亡事故			
執筆者			
Scott E Hadland, MD, MPH, MS, Ziming Xuan, ScD, SM, Vishnudas Sarda, MBBS, MPH, et al.			
掲載誌			
Pediatrics. 2017 Mar;139(3). pii: e20163037. doi: 10.1542/peds.2016-3037.			
キーワード			PMID
アルコール関連政策、アルコール関連自動車死亡事故、米国			28193794
要 旨			
目的： アルコール関連政策と法定最低飲酒年齢 21 歳未満の者におけるアルコール関連自動車死亡事故との関連を調査した。			
方法： 1999-2012 年の米国における 29 のアルコール関連政策を対象とした。アルコール関連政策を定量的に評価するため、政策の有効性や実行状況をスコア化したアルコール関連政策スコア（Alcohol Policy Scale score: APS score）を使用し、0（政策なし）から 100（より制限の厳しい政策環境）で示した。2000-2013 年の 20 歳以下のアルコール関連自動車死亡事故のデータは、国土安全局 Fatality Analysis Reporting System データベースから抽出した。その定義は血中アルコール濃度 0.08%以上の運転手による衝突死亡事故とした。ロジスティック回帰分析により、アルコール関連政策と、その 1 年後のアルコール関連自動車死亡事故との関連を分析した。調整変数は潜在的な交絡因子（性、年齢、人種または民族性、調査年、州単位の共変量）を用いた。			
結果： 84,756 件の 20 歳以下自動車死亡事故のうち、28% (23,757 件) がアルコール関連であり、死亡者の内訳は運転手 46.3% (11,006 件)、同乗者 43.0% (10,212 件)、歩行者や自転車走行者等 10.7% (2,539 件) であった。死亡者は主に男性 (72.7%) で、18-20 歳の者が 65.5%、非ヒスパニック系の白人が 51.2%であった。APS score 10%の上昇は死亡事故の減少と関連しており（調整オッズ比: 0.91, 95%信頼区間: 0.89-0.94）、死亡者が運転者、同乗者である場合も同様であった。また、性別、年齢階級別（0-15 歳、16-17 歳、18-20 歳）の解析においても同様の関連を認めた。			
結論： より厳しいアルコール政策は、若年者におけるアルコール関連自動車事故の死亡率減少と関連していた。			